

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名

伊勢原市立成瀬小学校

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉と書き言葉との違いについて気付くことができる。 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 人物像を具体的に想像することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する。また、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 文の中における主語と述語との関係を捉えることができること。 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができること。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数量の関係を、口を用いた式に表すことができる。 直方体の見取図について理解し、かくことができる。 簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が小数である場合の除法の計算をすること。 速さの意味について理解していること。 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できること。 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できること。
質問調査	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日しっかり食べて、決まった時刻に起床するなど、基本的な生活習慣が身についている。 先生から認められ、支援を手厚く受けていると感じている児童が多い。 いじめは、どんな理由でも許されないことを理解している。 人が困っているときは、優しく接しようと思がけている。 幸せを感じている児童の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の学習の重要性を理解しているが、好きでない児童が多いこと。 伝え合うことや関わり合うことについて前向きとはいえないこと。 読書や新聞を読むなど、活字に親しむことに対して後ろ向きな児童が多いこと。また電子機器に依存しがちな生活になっている児童が多いこと。

2① 授業の充実に向けた重点的な取組

【国語】

・学習の大切さを理解している児童が多いが、好んで学習している児童が少ないことがこの結果から見る事ができた。子どもたちが興味・関心を高めて前向きに学習に取り組んでいけるよう、授業改善を進めていく。
 ・必要な材料を精選し、自分の考えを表現したり書いたりすることに課題が見られた。様々な情報から必要なものを選び、そこから考えを表現できるように支援していく。

【算数】

・除数の学習や複雑な計算に課題が見られた。児童が捉えやすい具体的な場面を提示するなど、分かりやすい授業を展開していく。
 ・速さの意味について、理解に苦労している児童がいることが分かった。意味についてさらに指導を深めるとともに、時間と道のりとの関係についても、具体的な場面を用いて指導に当たっていく。

2② 家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項)

※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方に知っておいてほしい内容

子どもたちを日々支えていただき、誠にありがとうございます。

1. 活字に親しみ、楽しむような機会を

活字離れが叫ばれていますが、成瀬小学校の児童においても同様な傾向が見られます。国語の学習が将来に向けて重要であることを理解しているにもかかわらず、電子機器に興味が増え、本や新聞などを読む機会が減っています。語彙力をつけ、活字に触れることで、日本語独特の表現の豊かさを味わうことができます。ご家庭でも、読書に親しみ、感想を伝え合う機会などを設けてはいかがでしょうか。

2. 学習に向かう姿勢を前向きに

学習の重要性を理解している児童が多く、大変嬉しく思います。しかし、学習に取り組む姿勢については課題もあります。国語や算数の学習は、とても大切と考えてはいるものの、なかなか前向きに取り組むことができない児童が多いのも現状です。日頃の授業において、学習する楽しさを実感できるよう今後も授業改善に取り組んでいきます。